

目次

序	大石裕	v
ジャン・ボダンの主権理論の「国際法」文献における受容過程の素描	明石欽司	一
——主権理論確立過程検証のための準備作業として——		
「活用 (exploitation)」概念と「権能」論	片山直也	三元
——PFIにおける公共施設等運営権を契機として——		
民法七二四条後段の定める除斥期間の柔軟化とその限界	金山直樹	五
民法改正と消費者契約	鹿野菜穂子	六
——惹起型錯誤（不実表示）を中心に——		

他人物による弁済 北居 功…三三

EU 国際私法における承認論 北澤 安紀…一四

私法の自律性と憲法上の権利 小山 剛…一七

ドイツ法における将来動産と将来債権の譲渡担保
——商品倉庫の譲渡担保と包括債権譲渡担保を念頭において—— 水津 太郎…一五

賃貸借の終了による転借人への明渡請求の可否
——「当事者距離関係」要素からの再構成—— 田 高 寛 貴…三五

「原則立脚型交渉」とハーバード流交渉学
——ロジャー・フィッシャー教授の遺産—— 田 村 次 朗…二五

弁済者代位の法定担保性と被代位債権の専属性 平 野 裕 之…二六

ブラジル電子商取引法案における安全（セキュリティ）対策、 消費者の個人情報とプライバシー	前田美千代……………三三
——平穩生活権の保障から自己決定権の保障へ——	……………
開発における統治と立法の意義	……………
——正統性と正当性の相補作用による法の支配の構築——	……………松尾 弘……………三五
債権譲受人の「第三者」性と基本的法律関係の処分	……………武川幸嗣……………三九
民事責任法と人・家族	……………
——問題提起と課題設定——	……………白石友行……………三九
米国における特許無効判断の齟齬	……………
——Baxter 事件を中心に——	……………君嶋祐子……………四四
池田真朗教授略歴・主要業績	……………四三